



こんどう さおり
近藤 沙織

変容する森と暮らしの中で
人とクマの安全な境界づくりを

動画で一般質問を
ご覧いただけます

緊急銃猟の導入以前に重要な予防策は

答弁 防護柵等の設置で対策を推進していく



問 クマ出没の背景には、餌不足だけでなく、里山管理の低下、森林の高齢化や堅果類の不作、人の気配減少など複合要因が指摘されるが見解は。

答 里山に人の手が入らなくなったりことや堅果類の凶作などが重なり、出没増加につながる。

問 ツキノワグマは埼玉県では準絶滅危惧種に指定。緊急銃猟は最終手段とされている。追い払いや放獣等の非致死的対応を優先すべきでは。

答 安全確保を最優先とし、国・県の動向を踏まえ放獣等の手法を研究していく。

問 里山再生には、地産地消や林産物の適正価格支援など農林業と環境政策の連携が不可欠と

考えるが、市の方針は。

答 森林整備を進めつつ、林産物の地産地消や支援の在り方を計画策定の中で検討していく。

問 人の生活圏と野生動物生息域を分けるゾーニングは、人と野生動物の安全な棲み分けに有効。地域団体と協働し緩衝帯整備を進める考えは。

答 森林整備が緩衝帯形成につながる。維持管理や団体との協働は、整備計画の中で検討。



道路に出てきたツキノワグマ親子のイメージ



さとう まこと
佐藤 真

土砂災害、水害のリスク把握と被害軽減策、公的支援の充実を！

動画で一般質問を
ご覧いただけます



住宅被害のリスク把握の方法は

答弁 ハザードマップの改訂に努める

問 水害、土砂災害による住宅被害のリスク把握はハザードマップが基本だが、そのアップデートは。

答 ハザードマップは発行から4年以上が経過していることから改訂が必要と認識している。国や県からの情報、市が把握した最新の情報を集約したものを作成する予定である。

問 住宅被害が発生した場合、公的な支援をどのように行うのか。

答 災害救助法などに基づく給付や融資、減免などの支援が受けられない比較的小規模な災害については、県との共同で実施している「埼玉

県・市町村被災者安心支援制度」に基づく支援を行う。また、市独自の災害見舞金・弔慰金の支給、市税の減免、保険料免除などの金銭的支援、各種相談などの支援を実施している。

空き地対策について

問 空き地の雑草や枯れ草などの除去を、より迅速、適切に行うための方策は。

答 条例に基づき、環境保全の観点から助言・指導を中心に対応する。それだけでは困難な事案、緊急を要する事案については、命令や行政代執行も検討する。